

2) ルートや駅位置の環境影響評価手続きと都市計画手続きの時期は？ 用地交渉は？

まちづくり局 > 手続きに一般的には4、5年かかる。用地取得についてはその後、横浜市が行う。川崎市域内は、横浜市と協議調整し、協力して進めていきたい。

あまがさの考え > これだけ何度も指摘してきているのに、市はルート選定において用地取得の容易性は評価項目とするものではない。用地取得は横浜市が行うもの、と説明しています。市内の状況をより知っている川崎市は、協力するというスタンスにとどまるのでしょうか？

<2030年度開業目標。着工は5年後以降>

3) 工事着工の予定時期は？

まちづくり局 > 4、5年かかる手続き終了後、2030(令和12)年度の開業目標に向け、工事を進める。

あまがさの考え > この開業目標を確実に、できればさらに早い開業を目指すためには、ルート選定と駅位置を川崎市が主体的に検討し、横浜市と協議すべきです。

<駅工事は開削。工事ヤードや南口の交通機能維持が課題>

4) 駅前に用地がないので、開削しない工法はあるのか？

まちづくり局 > 地下鉄の駅は開削工事が一般的。

5) 工事をするための暫定バスロータリーなどの考え方は？

まちづくり局 > 新百合ヶ丘駅周辺の事業上の課題は、①施工時の工事ヤードの確保②南口広場など、駅周辺の交通機能維持がある。

<来年度に駅周辺まちづくり方針発表>

6) 延伸事業と新百合ヶ丘の再開発を事業推進にあたりどう検討するのか？

まちづくり局 > 広域拠点としての交通結節機能のあり方なども2021(令和3年)年度に「新百合ヶ丘駅周辺のまちづくり方針」を策定する。

あまがさの考え > あざみ野駅を参考に新百合ヶ丘新駅の大きさを赤い四角で表してみました。開削(その部分を上から掘っていく)工事が必要だとすると、もし、南口ロータリーの位置に駅を造ろうと思うと、ロータリーの半分以上をつぶして穴を掘らなければなりません。ロータリーを活かしてOPAやエルミロードの裏の道を開削するには、道路幅だけでは足りません。これだけの大工事になるのに、工事期間中のまちの機能をどう確保するのか、その後のまちづくりはどのようにしていくのかという点は「課題」としか答弁がありません。市は、2021(令和3)年に「まちづくり方針」を策定するとしていますが、新百合ヶ丘駅の位置はそれまで確定されないのでしょうか？

また、ヨネッティ王禅寺周辺の航空写真に、想定される駅の大きさの赤枠を置いてみました。この辺りは高低差が大きく、さらにヨネッティの建物、リニア新幹線の通風口などが迫り、尻手黒川線は橋脚に防音壁がある部分もあります。市が説明する宮前区方面への交通結節点としての整備が可能なのでしょうか？

不確かなことばかりで、2030年という開業目標が守れるのか不安です。川崎市内は、まちのことをよく知っている川崎市が、もっと主体的に推進すべきだと考えます。

コロナ禍の施策検証とコロナ後の社会に適應する行政のあり方について (1面からの続き)

3) 5月13日総務委員会で緊急時における政策の優先順位のあり方を正しました

あまがさ裕治 > 「川崎じもと応援券」を政策選択したというが、裏付けが明らかではない。沈みかけている、瀬戸際の小規模事業者の事業運営をシミュレーションしたら、例えば家賃一月分の3分の2にあたる10万円の支給という、真水を出す、リアルな政策をつくらないのか? 「川崎じもと応援券」は感染拡大のフェーズが終わった後の次の話。順番が違う。瀬戸際のところを考えるのが行政だ、と指摘しました。

実際、10月12日にラーメン店主から「川崎じもと応援券が最初に使われてから、換金までに2ヶ月もかかったと聞きました。「30万円近くが手元資金から無くなり、かえって資金繰りが悪化して困った」ということです。その日の夕方、中川経済労働局長に事業者のリアルな声を伝え、早急な対応を求めました。現在は、支給遅れはないということですが、小規模事業者には命取りになってしまうところでした。



駅的位置はイメージ

横浜市、川崎市が発表した概略ルート駅位置について

横浜市高速鉄道3号線の延伸に伴う駅周辺のまちづくりの方向性

横浜市高速鉄道3号線の延伸(あざみ野~新百合ヶ丘)については、平成31年1月に事業化の判断を発表しました。以降、市民の皆様が事業に対する理解を深めていただくため、本事業の概要や概略ルート・駅位置、今後の事業の進め方等について、令和元年8月に説明会を開催しました。また、同年9月から10月にかけて川崎市側の有力ルート案の考え方について意見募集を実施しました。このたび、横浜市と川崎市は、市民の皆様からの御意見等を踏まえ、本路線に関する概略ルート・駅位置について協議・調整し、以下のとおりおりました。

ヨネッティ王禅寺付近 路線バス等の円滑な駅アクセスを可能とする交通結節機能の強化等による川崎市北部地域の公共交通ネットワークの充実とともに、周辺の住環境に配慮しながら、地域資源の活用等による賑わいの創出など、

駅周辺の活性化に資するまちづくりを進めます。

新百合ヶ丘駅付近 民間活力を活かした土地利用転換の誘導や交通結節機能の強化、駅周辺の回遊性向上を目指し、ハード・ソフト両面での総合的な取組により、広域拠点にふさわしいまちづくりを推進します。

参考想定スケジュール

※開業目標は交通政策審議会答申に目標年次を掲載したものであり、事業スケジュールについては引き続き、横浜市川崎市において精査していきます。

